




国立病院機構の
シンボルマーク



独立行政法人国立病院機構
 **松江医療センター**
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852)21-6131 FAX (0852)27-1019
 URL <http://www.mmedc.jp/>
 発行責任者
 院長 中島健二
 編集者
 事務部長 上甲尚史



ニューフェイスと満開の桜

今年度も4月1日、満開の桜の中で看護師の新規採用者を迎えました。全員が揃って成長し、戦力として当院を支えて欲しいです。また、看護部長・副看護部長も新たに迎え更なる看護の充実に努めてまいります。

● **もくじ** ●

教育研修部から「多様性に向き合える器」 2
 コラム 世界で見つけた奥出雲の Made in Japan .. 3
 旧看護師宿舎での消火・救助訓練について 4
 「もの忘れ外来」を開設しました 4
 「看護の日」イベントを開催して 5
 熊本地震医療班活動報告 6
 永年勤続表彰 7

各診療科・各部門職場紹介 8
 保育園に移動図書館がやって来ました 9
 しじみ会俳句掲載 休刊のお知らせ 9
 開業医紹介コーナー 10
 地域医療連携室だより 11
 外来診療表 12

基本理念 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。





～ 教 育 研 修 部 コ ラ ム ～

多 様 性 に 向 き 合 え る 器

呼吸器内科医長・教育研修部長 門 脇 徹

仕事柄、診療を通じて、様々な背景を持つ方と接します。男女問わず年齢も職業も、それぞれの立場も様々。中には外国からお越しの方もいらっしゃいます。いろいろな方と接することで医師としても社会人としてもたくさんの経験を積ませてもらっています。たまに国際学会などに出かけると、さらにたくさんの驚きがあり、いかに閉じた世界に普段自分がいるかを痛感します。言葉の違い、出で立ちや行動にあらわれる習慣や文化の違い…などなど。いかに人間といえどもこれだけの多様性があるのだ、ということを感じ知らされます。

昨年10月に札幌で開催された国立病院総合医学会では「新人教育から共に学び育つ組織作り」というテーマのシンポジウムがありました。私もシンポジストとして講演・ディスカッションを行いました。その中で大きな話題が「新人看護師の多様性」。現場で若手教育に携わっている方はピンと来るでしょうか。当院でも少しずつその多様性の波が押し寄せてきています。実際のところは看護だけではなく、医療・介護系の職種では同様の現象が見られています。看護教育課程のある学校を卒業して新卒として看護師になる方の割合が少しずつ減少し、例えば“医療や看護、介護系以外の大学を卒業した”とか、“他の仕事を経験してきた”とか、“子育てがひと段落した”などという様々な背景や人生経験を持つ方が、看護師を目指して実際に職に就く、というケースが増えてきているのです。もちろんその多様性は大歓迎です。なぜなら、仕事の対象となる患者さんやご家族がそもそも多様性に富んでいて、世の中多様性だらけだからです。職員のポテンシャルの多様性の幅が広がれば、組織としてそれだけ相手の多様性に対する対応力が増すからです。しかしながら、現時点では多様性を持つ新人看護師の受け皿の整備が不十分である、というのが前述のシンポジウムでの現状認識のコンセンサスでした。

多様性の対応としては、人事や教育面での配慮ということになるでしょう。例えば、ホテルマンの経験を持ち、接客力の高い職員を初診の患者さんや初めて当院に来られる方に対応することの多い外来配属にしたり、留学経験があり語学が堪能な職員に通訳係を担ってもらったり、とそもそも持っている力をうまく発揮できるような配置を行っている医療機関もあるようです。このような対応は本人の希望との合致も必要ですが、うまくいけばお互い“win-win”の関係性になれることでしょう。問題は教育です。ここ数年はいわゆる「ゆとり世代」への対応が世間でも話題になりました。最近では「さとり世代」という言葉も聞かれます

(かくいう私は「団塊ジュニア世代(詰め込み教育真っ只中)」となります。社会背景や受けてきた教育システムによって一括りにされてしまうことは、対象の世代の人たちは嫌でしょう。かく言う「団塊ジュニア世代」の私たちの世代は「ロスジェネ世代」と言われることも多く、正直あんまりいい気はしていません)。多様性に対応するという事は、例えばこのような世代の変化や年齢の幅にも対応しなくてはならない、ということになります。課題をひとつ出すにしても、若い世代にはある程度のフォームを指定し、ある程度具体的な指示を入れ込む必要があります。それは彼らがそういう教育を受けてきたからです。課題を出す我々が彼らに合わせなくてはいけないのです。我々の世代のように「質より量」という考え方とか、「人の技術を盗む」とか「まあ気合いでなんとか」という論理的でないものは全く通用しません(この辺りは齋藤孝氏の著書「若者の取扱説明書」(PHP新書)に詳しく記されておりますので興味のある方はどうぞ)。

その意味で、新人看護師をターゲットとした既存の教育システムはカスタマイズが必要、ということになります。なぜなら教育システムを作った世代が、教育対象の多様性を予測していなかったからです。したがって現在の国立病院機構の看護師教育システムであるACTyナース(5年目までを対象にした経年別の看護師研修)に依存する教育だけでは、早晚対応が難しくなると私は考えています。もちろん、誰もが通らないといけないマストなものについてはマストです。当院ではまだ、新人看護師の多くが“新卒者”ですので、大ナタを振るうまでもは必要ないかもしれませんが、状況を見ながら足したり引いたり、ということは必要でしょう。さらにもう一つ。中途採用者の教育問題があります。近年、様々な理由で当院に中途採用で来られる方が少しずつ増えてきています。そうなることさらにその多様性が広がります。医療機関が異なれば文化が異なります。使用する機器や方法まで違うことはままあります。他の医療機関で経験豊かなベテランさんだったとしても当院で働くには経験不足、ということもありえるのです。そこには教育の介入が必要ですが、“全体として教育”したり、“個別に教育”ということはかなり困難であり、実際にまだまだ整備不足です。

話がとっ散らかりましたので整理しましょう。年齢、人生経験、医療職としての経験など、「これまでになく多様性」が新人として採用する職員から広がりを見せています。当院にもこの波が少しずつ押し寄せてきています。医療機関としての教育システムでこの多様

性に対応するには、おそらく既存の「経年別」教育では不十分です。「経年別」で全てに対応しようとすると、必ずモレとダブリが生じます。今後はおそらく「経年別」という考え方が重要なのではないかと考えています。新人さんであっても、クリアしているものであればスキップしても構わない研修、というのがあっていいと思っています。実現できるかどうかは今後協議が必要ですが、教育研修部がもう少し“大きな”教育研修部になることができれば、大学教育のような単位制（到達できれば単位を取得し、次のステップにいける）というようなのを導入するのも一つの方法かもしれないと考えています。

「これまでにない多様性」に向き合える懐の深さが教育に求められている、と感じています。どうすればうまくいくのか？なかなかの難問です。しかし、常に考えていかなければならない問題です。と悩んでいたら、ふと「ニーバーの祈り」を思い出しました。

“O GOD, GIVE US SERENITY TO ACCEPT WHAT CANNOT

BE CHANGED,
COURAGE TO CHANGE WHAT SHOULD BE CHANGED,
AND WISDOM TO DISTINGUISH THE ONE FROM THE OTHER”

“神よ 変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ。”

思い切って変える勇気と焦らない冷静さと、見極める知恵。あとは「与えたもうたもの」を受け入れる器の大きさ。これらは「これまでにない多様性」に向き合うシステム作りにおいてとても大事なことで、そう信じています。皆さんとともにいいシステムが作れるよう一歩ずつ前進していきたい、そう思っています。



コラム 世界で見つけた奥出雲の Made in Japan

事務部長 上 甲 尚 史

今年2月、『和風総本家【世界で見つけたMade in Japan】』（テレビ東京系列）で島根県奥出雲町の職人さんが造る『真弧(まこ)』が紹介されました。私が観たのは4月の再放送でしたが、この職人さんが当院に通院されていると聞き、早速話を伺うことにしました。

当院から車で1時間ほど山の中へ、“そろばん”で全国に知られた奥出雲町亀嵩に工房を構える出雲木芸の枝木暉彦さんを訪ねると、「散らかっている」と言いながら快く工房を見せて頂きました。



枝木暉彦さん

テレビで紹介されたMade in Japan『真弧』は、フランスの地中海人類科学研究所で発掘された土器の形状を型取り、土器の形状を忠実に紙に転写することが出来るものでした。

実際、手に触れてみると、小さいけど「しっかり」した作りで、型取る時には滑らかで型取った後も形状を崩さない、軽さと丈夫さを備えた繊細なものでした。枝木さんがこの木のパーツを作成し、その後、東京八王子の工房で木のパーツを組み立て、隙間に0.5ミリと薄くスライスした竹500枚以上を詰めて完成させるそうです。スライスした竹は木のパーツで両側から締め付けられていて、この締め付ける力加減が難しいらしく、木のパーツを繋ぐ溝に僅か0.7ミリの差を付けているそうです。使われる木はアフリカ産のズビンガという木で、とても堅く加工に手間が掛かるとのこと。

こうした繊細な加工がMade in Japanとして世界で認められる秘訣だと思います。

『真弧』は年間500セットほど作成しているそうですが、普段は家具などを作成しているそうで、別に見せて頂いた松で造られた行灯は木の年輪をほのかに浮かび上がらせている素敵な工芸品でした。

元々そろばん職人をされていて、家具を造るようになって40年、『真弧』の製作は20年になるそうです。伝統技術が継承され、更に新しい技術が加わることで世界に認められるMade in Japanが生き続けていることに感動しました。

今回の突然の訪問にも快くお話を聞かせて頂いた枝木さんには、本当に感謝しています。これからも奥出雲の地で伝統を守っていかれることを願っております。



旧看護師宿舎での消火、救助訓練について

松江市北消防署 消防二課長補佐 宮崎哲人

私たちが対応している災害は近年、震災、水害等自然災害の増加により複雑多様化、広域化しており対応も特殊性、困難性が高まっている傾向にあります。

松江市消防本部ではより実際の活動に近い訓練をする必要がある中、この度、松江医療センター様のご厚意により旧看護師宿舎解体工事現場を提供していただくこととなり、平成28年2月24日と25日に消火訓練、3月22日、23日に救助訓練を実施させていただきました。

火災訓練では宿舎内に炎、煙を充満させ火災現場と見立てて、消防隊現場到着から隊員による屋内進入、逃げ遅れ者を検索、救出、胸骨圧迫を継続しながら搬送し、救急隊へ引き継ぐまでを実施、狭隘な階段や屋内廊下、熱気と濃煙による視界不良など、実火災に近い想定訓練となりました。

救助訓練では、地震により建物倒壊、瓦礫の下に要救助者がいるという想定で実施し、隊員の声かけによる場所の特定、余震に備え地震警報器を設置し、瓦礫の隙間に画像探査装置で確認、意識がある方の音を拾う地中音響探知機なども使用して、現有資機材を有機的に活用した人命救助方法で実災害に沿った訓練を実施することができました。

後日の検討会でも隊員からの良い訓練ができた等、前向きな意見が飛び交うなど、実践的な訓練は今後につながる貴重な経験となりました。

今回、ご協力いただきました松江医療センター様に感謝を申し上げ、今後とも消防行政へのご理解とご協力をお願いいたしまして、拙文ではございますが貴広報紙面への投稿とさせていただきます。ありがとうございました。



「もの忘れ外来」を開設しました

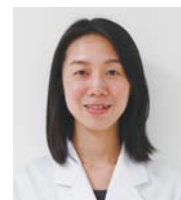
毎週水曜日 9:00~12:00 (要予約)

神経内科医長 深田育代

初めてご挨拶させていただきます。今年4月より当院神経内科へ赴任しました深田育代と申します。

当科では以前より島根県における筋ジストロフィー、神経難病診療を担っておりますが、5月から新たにもの忘れ外来を設置いたしました。日本では65歳以上の高齢者のうち認知症有病率は近年10%以上と報告され身近な方にもおこりうるものです。認知症とは、忘れやすい、今までできたことができなくなる（料理ができなくなる、内服や金銭の管理ができないなど）、言葉がでてこない、意欲や関心が減るといった症状が脳の機能が低下したために生じて自立した社会的生活を送れない状態をいいます。アルツハイマー型認知症など進行性の経過をたどるものが多いのですが治療介入により進行を遅らせたり、原因によっては介入時期が早ければ改善したりするものもあります。患者さんとご家族ができるだけ和やかに暮らせるよう早めの介入を目指し、当科では外来、また必要時に入院での精査加療を行います。認知症は自覚に乏しい傾向があるためご家族など周りの方々による気づきが契機となることが多々あります。気になる症状があればお気軽にご相談ください。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



5/12

「看護の日」イベントを開催して

看護部広報委員 1階病棟看護師 門脇 ひかる

ナイチンゲールの生誕日に因んで制定された「看護の日」の5月12日に合わせ、『看護の日』のイベントを開催しました。

院内では、病院の玄関ロビーに、ナイチンゲール像を設置しました。また受け持ち看護師から患者さんへのメッセージカードを作成し、配布しました。

院外に向けては毎年、地域の方々への健康応援と共に、地域に根差した病院としての当院の紹介をかねて、『看護フェア』を開催しています。今年は、参加者層の拡大を考慮し松江イオンにて開催し、当院のマスコットキャラクターである「松丸くん」も参加しました。

『看護フェア』には、幅広い年齢層の方々が約40名参加して下さいました。参加して下さいました方へは肺がんCT検診のパンフレット、記念品としてウエットティッシュ、バンドエイド、クリアファイルを配布しました。「松丸くん」と一緒に写真を撮り、その場で写真入りカレンダーとして参加された方々にプレゼントもさせて頂きました。幼い子供さんは嬉しそうに「松丸くん」と写真を撮っていました。血圧測定、身長体重測定、体脂肪測定を行い、医師による医療相談、管理栄養士による栄養相談、薬剤師によるお薬相談を行いました。「血圧は毎日測っているわ。」「体脂肪測定は普段できないから測ってみたい。」という声が聞かれ、日頃からご自分の健康に気を付けていらっしゃる方や、健康に興味のある方が多かったように感じました。医療相談では、自分の身体の変化を感じ受診するか迷っておられる方が気軽に相談していただき、受診の後押しにつながったのではないかと思います。栄養相談では栄養補助食品の試飲、試食ができ、「普段興味があっても試すことができないから来てみました。」と言う方もおられ、管理栄養士の説明の下、試食をされていました。

看護の日ギャラリーでは、病院紹介のポスターや、『私たち、こんな看護をしています』と題して、それぞれの病棟の様子や特徴が書かれたポスターを掲示しました。それぞれの病棟の特徴や行っている看護についてみなさんに知っていただけたのではないかと思います。当院の呼吸器疾患についても知識を持っていただくため、結核、睡眠時無呼吸症候群、肺癌についてのパネルシアターを作成し、掲示しました。看護フェアに参加されない方でも足を止めて見ておられ、呼吸器疾患について知っていただくきっかけになったのではないかと思います。また、『ぼく・わたしのお母さん・お父さんの作る大好きな料理』と題して、当院の職員の子供さんたちが描いた絵を展示しました。個性あふれるほほえましい絵にイベントに参加した方からも「心が和む」との感想をいただきました。それぞれ掲示物はイベント終了後、当院の売店横のホットコーナーへも展示しました。

今回の看護フェアを通して、地域の方々の健康への意識付けのお手伝いが出来たと思います。また、当院のことを深く知らない方々や若年層の方々へも知ってもらい機会になり、今回の目的は達成されたと思います。たくさんのご参加とご協力ありがとうございました。



松江医療センターマスコットキャラクター「松丸くん」は大人気！

開催前ミーティング風景



医療相談、お薬相談、栄養相談コーナー



体脂肪測定コーナー



会場全体風景



受付



血圧測定コーナー

熊本地震医療班活動報告

庶務係長 岡本 誠 司

記事内容：

この度の熊本地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。国立病院機構では地震発生日に災害対策本部を設置し、DMATチームやDPATチーム、医療班の派遣を行いました。当院からも4月20日から4月23日の期間で医療班を派遣いたしましたのでその活動内容を報告いたします。

1. 活動するにあたって

国立病院機構の支援活動として、当院からも医療班を派遣することとなりました。医療班のメンバーは目次外科医長、坂本看護師長、清水副看護師長、原副薬剤部長、岡本庶務係長の5名で構成することとなりました。活動するにあたってミーティングを行い、医療班活動に使用する診療材料や医薬品、食糧等を準備いたしました。

2. 活動前日

4月20日(水)午前6時に当院を出発いたしました。高速道路を利用して約9時間かけて災害対策本部が設置されている熊本医療センターに向かいました。夜のミーティングですでに活動している医療班から当日の活動内容の報告を受けました。

3. 活動1日目

4月21日(木)朝のミーティングで益城町の総合運動公園で活動することに決まりました。益城町は一連の地震で震度7を観測したところです。総合運動公園では主に益城町総合体育館、益城町交流情報センターを避難所として使用されていました。総合体育館の近くに日本赤十字社が救護所のテントを設置しており、その一角をお借りする形で診療活動を行いました。すでに活動していた鹿児島医療センターの医療班から引継を受け、午前10時から午後9時まで診療を行いました。当院の医療班が診療したのは約60人、日本赤十字社が診療した分もあわせると約130人に上りました。薬の処方希望の方が多く、車中泊されている方が多いためか下肢のむくみを訴える方も多くいらっしゃいました。また、看護師と薬剤師が避難所に赴き、避難されている方の体調がお変わりないか巡回を行いました。

4. 活動2日目

昨日に引き続き、益城町運動公園で午前7時から午前8時半まで診療を行いました。後続の福山医療センターの医療班に引継を行った後、災害対策本部の指示で熊本市の北区役所に向かいました。北区役所の災害対策本部でミーティングを行い、避難所2か所を回ることになりました。熊本市は電気や水のライフラインはほぼ復旧しており、昼間は出勤されている方や家に帰られている方も多くおり、避難所にほとんど人がいないという状況でした。診療した患者さんは4人程度でしたが、車中泊している方で下肢のむくみがある方やガーゼの固着がひどく簡単な処置が必要な方もおられました。

5. 活動を終えて

2日間の医療班の活動を終えて帰路につき、4月23日(土)15時に当院に帰院いたしました。

地震発生から1週間近く経っていたため、避難所での診療体制がある程度整っていた印象を受けました。私たち医療班が行った活動は微々たるものかもしれませんが、少しでも被災された方のお役に立てていれば幸いに存じます。今回の経験を今後の医療班活動に生かしていきたいと思っております。



松江医療センター医療班
目次医長 岡本係長
原副薬剤部長 坂本師長 清水副看護師長



救護所のテント



1日目の診療の様子



2日目の診療の様子①



2日目の診療の様子②

永年勤続表彰

庶務班長 石原 弘志

5月25日(水)に国立病院機構理事長による永年勤続表彰の伝達式が当院大会議室において執り行われました。

院長から表彰状と記念品が一人ひとりに授与され、伝達式の後には院長から長年の勤務に対するねぎらいの挨拶がありました。

表彰された方々は、次のとおりです。

【勤続30年表彰】

| | |
|-----------|-------|
| 薬剤部長 | 八本 聖秀 |
| 診療放射線科技師長 | 二見 智康 |
| 副看護師長 | 桐原 恵理 |

【勤続20年表彰】

| | |
|-------|--------|
| 副院長 | 矢野 修一 |
| 副薬剤部長 | 原 太一 |
| 看護師長 | 中田 早苗 |
| 看護師長 | 姉ヶ山美貴子 |
| 看護師 | 北村 美雪 |



薬剤部長 八木 聖秀

30年勤続表彰を、この施設で迎えられたことは、大変嬉しく思います。

よく言われるように、あっと言う間だったと最初は感じていましたが、色々な出来事を思い出すと、結構長い年月だったと再認識いたしました。

感想は以上で終わりなのですが、あまりに短い投稿になってしまいます。

よって、振り返ってみることに…岡山から始まり山口、広島、山口、広島、そして島根と異動してまいりました。たくさんの方々との出会いと別れを繰り返してきました。若い頃、多くの助言をいただきそれらを糧に成長すればよかったのですが、へそ曲がりな性格でよく上司に反発し、かなり遠回りに成長してきたような気がします。そんな奴ですから、初めて部門長になった時、何かちぐはぐで、その頃の部下には苦勞を掛けたかも知れません。

部門長になって10年目、今では他部門や部下の支えがあって業務ができている、決して一人ではないのだと本当に感謝しております。

さて、これからも、力まず自然体でやっていこうと考えておりますが、人を育てる立場ですから、私のあの一言が「業務の励み」、「人生の向上」になったと言っていたら、かなりの幸せを感じる31年目です。

永年勤続表彰を受けて

看護師 北村 美雪

看護学校卒業後、他施設で働き始め結婚を機に当院に再就職し数十年、20年永年勤続の知らせを頂き、もうそんなに時間が経ったのかというのが実感でした。今年ちょうど娘も成人式を迎え同じ節目にたっているんだと感慨深い思いがしました。

看護という仕事を続けていくなかで、いろいろな出会いや別れ、生きることや最期を迎えることに向き合う中で、看護観を考えさせられたり多くの学びがあり、今現在の自分自身の看護する姿勢に影響していると思っています。

私一番の自慢は「丈夫、元気」です。元気で働き続けられる健康な体に育ててくれた親への感謝と、家族はもちろん周囲の人の支えがあったからこそだと感謝しています。

これからも地道にコツコツと看護という道を歩んでいきたいと思っています。永年勤続受賞の機会を与えて頂き有難うございました。

各診療科・各部門職場紹介

5階病棟

呼吸器外科、長期療養病棟です。当院の肺がん手術件数は島根県トップクラスです。

手術を受けられる患者さんには、クリティカルパスを使用し毎日1日の予定を看護師と共に確認し、安心・安全な看護の提供を行っています。慢性呼吸不全の方には在宅酸素療法や退院に向けての支援を行っています。化学療法を受けられる患者さんも多くおられ、副作用への対応や食事等の配慮を行っています。寝たきりの患者さんには、口腔ケアやハーフビネガー療法により、常につるつるの美しい肌を保っています。同時に床ずれ予防にもなっています。



5階病棟の中央に位置する見晴らしの良いガラス張りのデイルームでは、ほっと出来る空間として多くの患者さんが団欒され療養を送っておられます。

明るく元気な病棟で、患者さんに信頼される看護を目指し日々頑張っています。



外来では、当院の特化した専門医療を中心に松江医療センターの窓口として、地域の皆様が安心して診療や、検査が受けられるように、日々努力しています。呼吸器疾患に関しては、化学療法の患者さんが安心して

外 来

安全に治療が受けられるように体制を整えています。また喘息やCOPDの患者さんに対しては治療や生活面の説明、急性増悪の予防や在宅酸素療法・NPPVの自己管理に向けて指導を行っています。禁煙外来・無呼吸外来もあり、スタッフ全員が、専門的知識を持ち看護を行っています。小児科外来は重症心身障がい児の発達外来を行っています。重心デイケアでは、よりよいケアの提供に繋がるように多職種が協同しています。神経内科外来は、専門医により神経難病の遺伝子検査が行われ、正確な診断と在宅ケアに向けて医療・福祉・介護と連携しています。診療内容も、顔面けいれん・斜頸治療、てんかん・アルツハイマー等多岐にわたります。私たちは医師と共に、患者さんのQOLを大事にした支援に努めています。



手術室・中材

患者さんに、より安心・安全な手術看護と物品の提供をしている手術室・中材です。手術室チームは、胸腔鏡下手術を主とした呼吸器外科手術や気管支ファイバー他の検査介助を行っています。

手術を受けられる患者さんの不安を少しでもやわらげるように術前訪問に伺い、お話をうかがってから患者さんに必要なことを説明しています。入室時には、スタッフ全員笑顔でお迎えています。

術後の訪問では、手術に関すること以外でも貴重なご意見をいただくことが多く、手術室でも参考にしますが、関係部署にも情報発信をしています。

中材チームは、患者さんに使用する物品の滅菌業務と医療用消耗品の払い出し・管理をしています。普段直接患者さんと接する機会は少ない部署ですが、適切な医療サービスを提供するため努力しています。



保育園に移動図書館がやってきました

保育士 妹尾 関子

さくら保育園では『絵本に触れる』をテーマに、絵本の読み聞かせを大切にしています。子ども達は自分で見たり読んでもらったりして絵本の世界に引き込まれていきます。

保育園では年齢に合わせてクラスの先生といっしょに、又、絵本の貸し出し日を設け、子ども達が思い思いに選んだ絵本を家庭に持ち帰り、お母さんの膝に抱っこしてもらい、肌と肌が触れ合う親子の係わりに役立つように月2回の絵本の貸し出しをしています。

年齢の発達段階にあった絵本を選び、子どもの言葉、心、夢(想像力)が育ってほしいと思っています。そんな中『楽天移動図書館』が保育園にやってきました。トラックの中にはぎっしりとつままった絵本がいっぱい自由に選んでみる事ができました。子ども達は目を輝かせながら、「おっきいもある」「はらぺこあおむしもある」と大型絵本や、なじみの絵本など、好きな絵本を選んでみたり、お兄さんに読んでもらったり、ゆったりと楽しい時間が過ぎていきました。移動図書館の絵本も借りる事ができて自分で選んだ本を持ち帰り家庭で読んでもらう体験もできました。トラックいっぱいの絵本は、トラックいっぱいの夢を積んできてくれました。「また来てね～」と見送る子ども達は笑顔で輝いていました。



しじみ会俳句掲載 休刊のお知らせ

「宍道湖」に毎号掲載していました「しじみ会」の俳句ですが、「編集長」として14年間務められてきた宮本俊史さんがお亡くなりになり、この度休刊とさせて頂くことになりました。宮本編集長は、筋萎縮性側索硬化症（ALS）のため当院へ長期入院されておりました。意思伝達装置「伝の心」を使い、残存機能を駆使して院内外の会員からメールで送られた俳句を取りまとめ、毎月「しじみ会会報」を発行されておりました。



その活動を、毎号「宍道湖」に掲載して頂き、多くの方にこの活動を知っていただけることは、編集長の闘病の支えになっていたと思います。そして、宍道湖に掲載されている俳句を読んでいただいていた読者の皆様に感謝いたします。なお「しじみ会」は現在のところ休刊ですが、宮本編集長の思いを何かの形で継続できればと願っています。再開の際には、また、「宍道湖」の紙面で俳句を読んでいただければと思います。

開業医紹介コーナー



当院は2000年10月から西津田5丁目で夫婦で開業しております。二人とも内科医で、毎日2診体制をとって一般内科診療を行うほか、それぞれの専門分野を活かし、院長は消化器病、肝臓病、副院長は糖尿病診療に力を入れています。上部・下部内視鏡検査は予約制ですが、超音波検査・糖尿病診療は予約制にせず、一般内科診療は手の空いた方が診るようにしてできるだけ待ち時間を短縮し、患者さんにより通院してもらいやすいようにと考えています。

日常診療では呼吸器疾患患者さんも多く受診されますが、慢性咳嗽や喘息、COPDなどでは貴院に頼らせていただくことも度々で、いつもお世話になっております。

《診療時間》

月～土 午前9：00～12：30
 (土曜は9：00～13：00)
 午後 15：00～18：30
 休診 木曜日と土曜日の午後
 日曜・祝祭日

院長 星野 潮
 日本内科学会認定医
 日本消化器病学会専門医
 日本肝臓学会専門医
 日本消化器内視鏡学会指導医
 副院長 星野 多津枝
 日本内科学会認定医
 日本糖尿病学会専門医

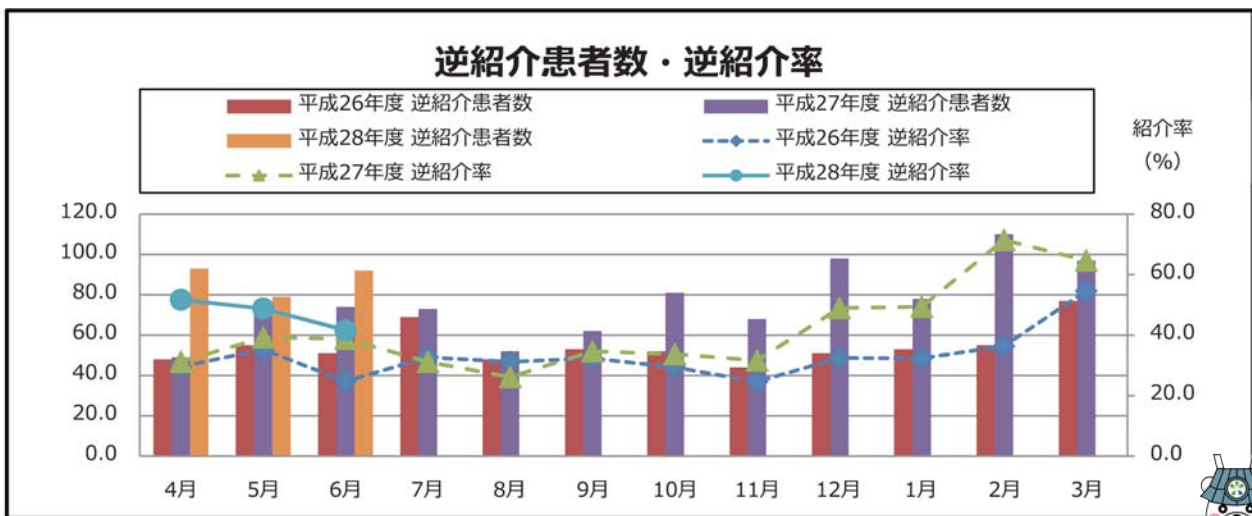
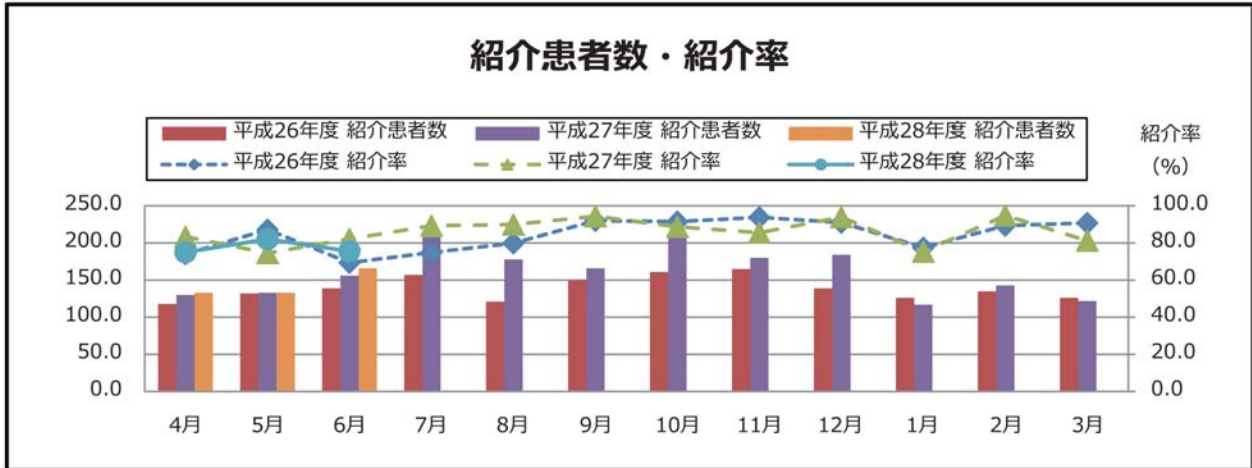


地域医療連携室だより 第24号

平成28年 7月



1. 紹介患者数・紹介率／逆紹介患者数・逆紹介率の推移



2. 退院支援データ 毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

| 平成28年度 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | H27年度 2月 | H27年度 3月 |
|-------------|--------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|-------------|-------------|
| 退院支援患者 (人) | | 38人 | 36人 | 68人 | | | | | | | | 57人 | 45人 |
| 退 院 先 | 在宅 (人) | 6人 | 3人 | 9人 | | | | | | | | 17人 | 7人 |
| | 施設 (人) | 0人 | 0人 | 0人 | | | | | | | | 0人 | 0人 |
| | 病院 (人) | 0人 | 0人 | 2人 | | | | | | | | 3人 | 0人 |

※逆紹介率とは、当院から開業医さんや他の病院へ紹介させて頂いた患者さんの割合です。
 逆紹介率＝逆紹介患者数÷初診患者数(休日、夜間の救急患者数を除く。)



外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成28年7月1日現在

| 診療科 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 専門領域 |
|--------------|-------|-----------------|------------|---------------------------|------------|---|---|
| 呼吸器内科 | 岩本(初) | 多田(初) | 木村(初) | 門脇(初) | 池田(初) | | 【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 多田 光宏 岩本 信一 西川恵美子 【副院長】 呼吸器一般 (肺循環・肺がん・結核他) 【統括診療部長】 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 【神経内科】 中島 健二 足立 芳樹 下山 良二 深田 育代 【院長】 神経内科 【臨床研究部長】 神経内科 神経内科・リハビリテーション 神経内科 【外科】 目次 裕之 伊藤 則正 阪口 全宏 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害 【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域 |
| | 多田 | 小林 | 岩本 | 西川 | 木村 | | |
| 神経内科 | 矢野 | 門脇 | 池田 | 矢野 | 小林 | | |
| | 中島 | 下山 | 深田 | 足立 | | | |
| 外科 | 伊藤 | | 目次 | | 阪口 | | |
| | 久保田 | 齋田 | 齋田 | 久保田 | 齋田 | | |
| 小児科 | 久保田 | 齋田 | 齋田 | 久保田 | 齋田 | | |
| | (予約) | (予約) | (予約) | (予約) | (予約) | | |
| 発達専門外来 | | | | | | | |
| 予防接種 | | (予約) | | | | | |
| 肺がん検診 | (予約) | (予約) | (予約) | (予約) | (予約) | | |
| 睡眠時無呼吸外来 | | | | 呼吸器内科 担当医(予約) | | | |
| 息切れ外来 | | 呼吸器内科 池田(予約) | | | | | |
| 喘息 | | | | | 池田 (予約) | | |
| アレルギー外来 | | | | | 池田 (予約) | | |
| 咳嗽外来 | | | | | 池田 (予約) | | |
| 禁煙外来 | | | | 毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約) | | | |
| アスベスト外来 | | 小林 (予約) | 木村 (予約) | 門脇 (予約) | | | |
| 嚔下障害外来 | | 下山 (予約) | | | | | |
| 神経難病外来 | | 下山 | | 足立 | | | |
| もの忘れ外来 | | | 深田 | | | | |
| 筋ジストロフィー専門外来 | | | | 下山 (予約) | | | |
| セカンドオピニオン外来 | (予約) | (予約) | (予約) | (予約) | (予約) | | |

診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30
 自動再来受付 8:00~11:30


 独立行政法人 国立病院機構 **松江医療センター**
 呼吸器病センター
 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号
 電話 (0852) 21-6131(代)
 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671
 医療連携室 F A X (0852) 24-7661

| | | |
|------------------|--------------|---|
| 特 殊 外 来 | 小児科発達専門外来 | 診療日：毎週月～金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：こぼや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。 |
| | 肺がん検診 | 診療日：毎週月～金曜日 15：00～17：00（要予約） 内容と特色：低線量CTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,400円 |
| | 睡眠時無呼吸外 | 診療日：毎週木曜日 14：00～16：00（要予約） 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。 |
| | 息切れ外来 | 診療日：毎週火曜日 13：00～15：00（要予約） 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。 |
| | 喘息アレルギー外来 | 診療日：毎週金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。 |
| | 慢性咳嗽外来 | 診療日：毎週金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：3週間以上長引く咳（せき）や喉の異常感でお悩みの方。 |
| | 禁煙外来 | 診療日：毎週木曜日 10：00～12：00（要予約） 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。 |
| | アスベスト外来 | 診療日：毎週火・水・木曜日 8：30～11：00（要予約） 内容と特色：石綿（アスベスト）曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。 |
| | 嚔下障害外来 | 診療日：毎週火曜日 9：00～12：00 嚔下障害外来（要予約） |
| | 神経難病外来 | 診療日：毎週火・木曜日 9：00～12：00 神経難病外来 |
| 来 | もの忘れ外来 | 診療日：毎週水曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：もの忘れの診断と治療を行います。 |
| | 筋ジストロフィー専門外来 | 診療日：毎週木曜日（予約＝指導室まで）9：00～12：00 内容と特色：筋ジストロフィーが診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院（筋ジストック）も受け付けています。 |
| | セカンドオピニオン外来 | 診療日：（完全予約制）紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科（筋ジスト）の専門医（医長）が担当いたします。 |